

19世紀から20世紀のフランス文学と社会

にしむら あきえ

国際言語文化学科

西村 晶絵

●連絡先 TEL: 054-264-5348
E-Mail: a-nishimura@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

フランス文学, キリスト教, ジェンダー,
セクシュアリティ, アンドレ・ジッド, ナショナリズム



19世紀末から20世紀前半に執筆活動を行った作家アンドレ・ジッド (1869–1951) を中心としたフランス文学の研究を行っています。ジッドはプロテスタントかつ同性愛者という二つの点で、フランス社会のマイノリティでした。カトリック的な価値観が浸透し、同性愛についての差別や偏見がまだ根強かったフランス社会において、この状況に一石を投げようとしたのは、ジッドをはじめとした作家たちでした。

社会問題に対して積極的に発言し、社会で存在感を示していた作家たちそれぞれの立場を、宗教思想とも絡めながら整理し、その特徴を明らかにすることを目指しています。現在は、19世紀末に台頭し、多くの作家たちを惹きつけた極右政治思想団体とカトリックの結びつきについても関心を持っています。



(1) アヴィニョン教皇庁



(2) モン・サン＝ミシュルの修道院



(3) ノートル＝ダム大聖堂 (パリ)



(4) サクレ・クール寺院 (パリ)

アピールポイント

これまで「病」というテーマでジッドの文学研究を行ってきました(『アンドレ・ジッドとキリスト教—「病」と「悪魔」にみる「悪」の思想的展開』、彩流社、2022年。拙著にて第40回渋沢・クローデル賞奨励賞受賞)。コロナ時代と文学・文化などのテーマでのレクチャーも可能です。